

インテック、栃木銀行に「F³（エフキューブ）CRM サービス」と連携した業務のデジタル化ツール「POWER EGG」を導入 ～AWS 上への構築により、基盤の老朽化やリソース制限のリスクを削減～

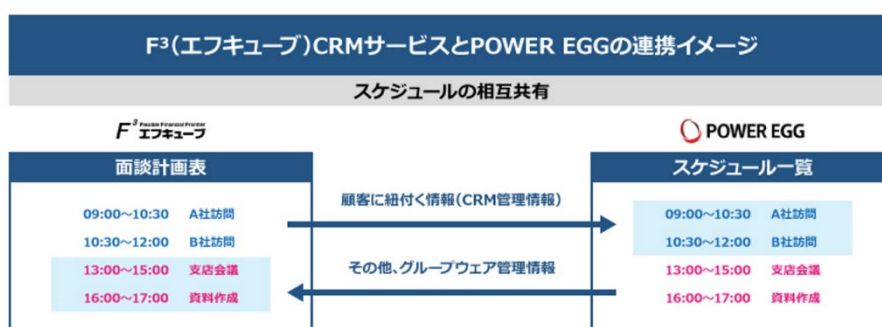
TIS インテックグループの株式会社インテック（本社：富山県富山市、代表取締役社長：北岡隆之、以下インテック）は、株式会社栃木銀行（本店：栃木県宇都宮市、取締役頭取：黒本淳之介、以下栃木銀行）に、金融機関向け総合情報系ソリューション「F³（エフキューブ）CRM サービス」と連携した、業務のデジタル化ツール「POWER EGG（パワーエッグ）」をアマゾン ウェブ サービス（以下 AWS）上に構築したことを発表します。

「POWER EGG」は、ディサークル株式会社が提供する、グループウェア、汎用申請ワークフロー、Web データベースなどの機能を連携した、プロセスを可視化できる業務のデジタル化ツールです。インテックの「F³CRM サービス」と「POWER EGG」を連携することで、情報の一元化による検索性や利便性を向上できます。

■ 「F³CRM サービス」と「POWER EGG」の連携で実現できること

(1) スケジュールの相互共有が可能

「F³CRM サービス」と「POWER EGG」の双方で登録した行内スケジュールや面談計画を連携することが可能です。「F³CRM サービス」の面談計画表と「POWER EGG」のスケジュール一覧を相互共有することで、二重登録の解消や登録誤りを防止し、業務効率化を実現します。

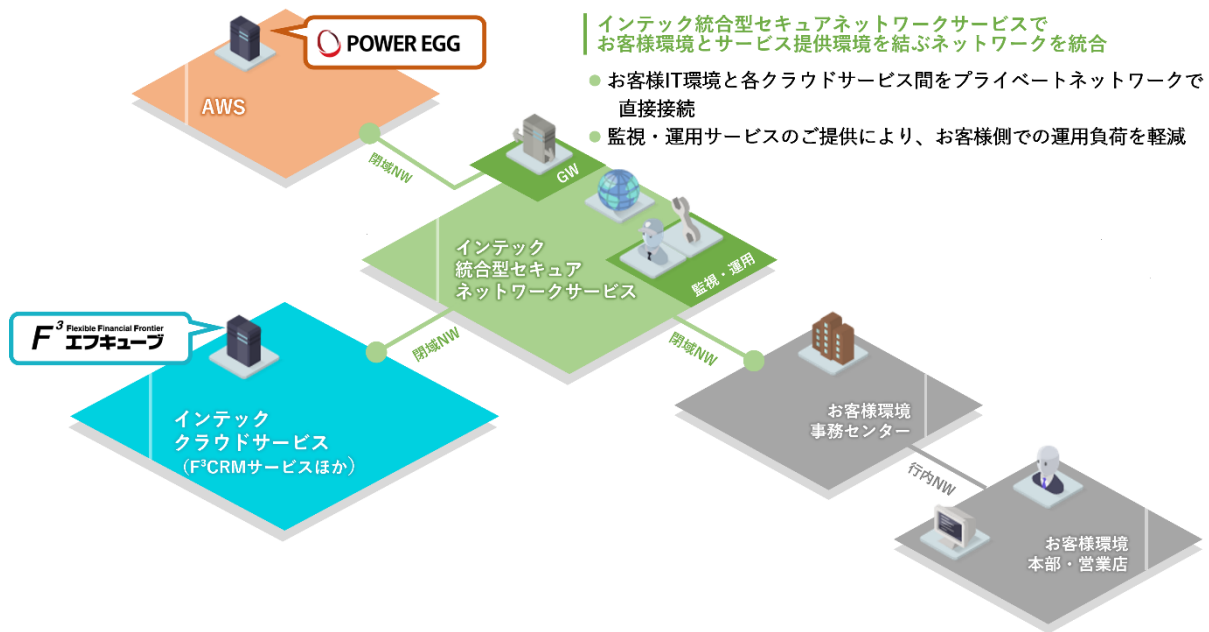


(2) AWS 上の環境構築で短期間、低コストでの導入を実現

「F³CRM サービス」と連携した「POWER EGG」の導入では、インテックが提供する「統合型セキュアネットワークサービス」を活用し、「F³CRM サービス」と連携する既存システム、さらに AWS との接続を統合しました。

セキュリティの観点から「POWER EGG」のシステムを閉域ネットワークで接続でき、かつクラウドサービスの利用検討など今後の DX 推進を見据え、AWS を採用しました。

これにより、導入環境の老朽化やリソース不足などのリスクを抑えながら、AWS のメリットである短期間、低コストでの環境構築とシステム負荷やビジネス成長に合わせた柔軟性、外部クラウドサービス連携時の拡張性などを得ることが可能となりました。



■栃木銀行の「POWER EGG」導入背景

「F³CRM サービス」を利用している栃木銀行では、環境負荷軽減の取り組みとしてカーボンニュートラル（温室効果ガスの排出量と吸収量の均衡）の観点も踏まえ、業務のデジタル化によるペーパーレスを推進してきました。また、業務のデジタル化は「生産性向上の要諦」と位置付けられており、業務のペーパーレス化と人と紙を前提とした従来型の企業文化を変革するデジタルツールとして、「F³CRM サービス」と連携した「POWER EGG」の導入を決定しました。

■「POWER EGG」機能の特長

(1) スマートフォンで「POWER EGG」上のスケジュール確認が可能

スマートフォン端末で「POWER EGG」が利用できるため、外出先や移動中に、行内スケジュールや面談計画、稟議書の決裁がタイムリーに実施できます。

(2) 「POWER EGG」に登録したファイルを自動的にPDFへ変換

ファイル管理拡張オプションを適用しており、「POWER EGG」で登録したExcelやWordなどのファイルを自動的にPDFへ変換できます。PDFファイルで、関係者に共有・展開できるため、ファイルの上書きを防ぐことが可能です。

■今後の展開

AWS環境で構築した栃木銀行への「POWER EGG」導入は、地域金融機関として3例目となり、着実に増えております。インテックは、AWSと「POWER EGG」を含むクラウドサービスとの連携において、豊富なシステム構築・運用実績がございます。F³（エフキューブ）をはじめとするサービス提供に加え、サービスの提供環境も構築することで、地域金融機関が抱える顧客の課題解決や行内業務のDX化を支援します。

※ 記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

※ 記載されている情報は、発表日現在のものです。最新の情報とは異なる場合がありますのでご了承ください。

「POWER EGG」について (<https://poweregg.d-circle.com/>)

ディサークル株式会社が提供する業務のデジタル化ツールです。「気づき」と「つながり」をコンセプトに、(1)グループウェア、(2)汎用申請ワークフロー、(3)Webデータベースなどの機能を備え、広い範囲の業務情報を集約することで、テレワーク環境下での業務効率化、社内コミ

ユニケーション活性化を支援しています。最近では、多様な働き方を推進する企業や地域金融機関における導入実績が急増し、2023年5月末時点で、1,516社（自治体：78団体、金融機関：84機関を含む）、約57万ライセンスの販売実績となっています。

「F³（エフキューブ）：Flexible Financial Frontier」について

(<https://www.intec.co.jp/service/detail/f3/>)

インテックが提供する金融機関向け総合情報系ソリューションの総称です。CRMシステム、コールセンターシステム、ローン自動審査システムなどを業務機能の体系化と業務単位のコンポーネント化で、合理的なシステム導入と拡張性を実現した金融機関向け「統合型CRMシステム」です。F³（エフキューブ）は豊富な導入実績と確かな技術および業務ノウハウの蓄積により、情報の一元管理、法人企業の事業性評価、商流の把握など営業推進支援を目的とした業務の効率化と高度化を実現しております。

株式会社インテックについて (<https://www.intec.co.jp/>)

お客様の経営戦略に沿った情報化戦略の立案からシステムの企画、開発、アウトソーシング、サービス提供、運用保守まで、IT分野において幅広く事業を展開しています。インテックは、1964年の創業以来培ってきた技術力をもとに、AI、RPA等のデジタル技術の活用や、新たな市場の創造にも積極的に挑戦しています。常にオープンな姿勢で、人、企業、社会を技術でつなぎ、自らも変革しながら「豊かなデジタル社会の一翼を担う」企業としてお客様に新しい価値を提供してまいります。

TIS インテックグループについて

TIS インテックグループは、国内外グループ2万人を超える社員が『ITで、社会の願い叶えよう。』を合言葉に、「金融包摂」「都市集中・地方衰退」「低・脱炭素化」「健康問題」を中心とした様々な社会課題の解決に向けてITサービスを提供しています。デジタル技術を駆使したムーバーとして新たな価値を創造し、人々の幸せと持続可能な豊かな社会の実現に貢献します。

【本件に関するお問い合わせ先】

◆報道関係からのお問い合わせ先

株式会社インテック テクノロジー&マーケティング本部 広報室 小川、長谷、稲垣
E-Mail : press@intec.co.jp

◆本サービスに関するお問い合わせ先

株式会社インテック バンキングビジネス事業本部 事業企画部 担当：松田
E-Mail : f3_pr@intec.co.jp